

## 「チャンス」と「機会」

### —なぜ「感染のチャンス」と言えないのか—

後藤 隆幸

#### 【キーワード】

機会、チャンス、類義語、BCCWJ

#### 【要旨】

本稿は、日本語名詞「チャンス」と「機会」について、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いて、その使用頻度や使用文脈、使用場面等を用例分析及び、名詞・形容詞・動詞の共起語分析によって調査した。その結果、「機会」よりも「チャンス」の方が程度や属性を表す語と共起することがわかった。具体的には「機会」ではやや範囲があいまいな共起語や日常生活において頻繁に発生する意味の語が多く見られたのに対し、「チャンス」ではその場限りや1回限りの意味で用いられる語が多いことが明らかとなったほか、受け取りやメリットに関係したプラスイメージの語と多く共起することがわかった。そのほか、書き言葉または公的な場面では「機会」が、話し言葉または私的な場面では「チャンス」がよく用いられることを明らかにした。

#### 1. はじめに

明治時代以降、多くの外来語が日本に流入した。その中には類似した意味の漢語があるにもかかわらず徐々に定着し、使用頻度が増加しているものがある。外来語により日本語の表現は豊かになった反面、使い分けの必要性も生じた。類似した漢語と外来語の使い分けについては、日本語母語話者は自らの感覚をもって使い分けることが可能だが、非日本語母語話者はそうした感覚が学習当初からあるわけではなく、使い分けが難しいことが多い。正しい使い分けを学習者が行うには、彼らに対して漢語と外来語の意味区別について教えることが必要となり、そのために漢語と外来語の意味区別については考察しなければならない。

筆者の経験上では、中国語母語話者による「チャンス」と「機会」についての誤用が見受けられた。しかし、両語を『日本国語大辞典』で検索しても「チャンス」「機会」の意味にそれぞれ「機会」「チャンス」とあり、堂々巡りとなるため、「チャンス」と「機会」の違いは明らかでない。ところが、実際には片方のみ使用可能な文脈や片方を用いるのが好ましい文脈がある。それぞれ「機会」を「チャンス」に置き換えた際に違

和感が生じる例を (1)、置き換えることが好ましくない例として (2) を挙げる。

① 「チャンス」「機会」のいずれかのみ使用可能な例

(1) 感染の機会を減らしましょう。(作例)

(1) '\*感染のチャンスを減らしましょう。(作例)

② 「チャンス」「機会」双方とも使用可能だが、許容度に差がある例

(2) もしも東京に行く機会があったら、是非行きたいです。

(秋山耀平氏の youtube 内の発言を一部改変)

(2) '\*もしも東京に行くチャンスがあったら、是非行きたいです。((2) の改変)

(1) 及び (1) 'について見ると、「機会」を使う場合には問題ないものの、「チャンス」を用いると不自然な印象を受ける。また、(2) (2) 'については、「機会」ではなく、「チャンス」を用いられても文の意味はわかるものの、やや大げさに感じられ、違和感を覚える母語話者もいるだろう。こうした使用文脈や許容度に関する差異は未だに明らかにされていない。そこで、本研究は「機会」と「チャンス」の使用文脈や使用場面の複数の方法から明らかにすることとした。

## 2. 先行研究

「チャンス」と「機会」について述べられた先行研究に彭 (2017) と陳 (2013) が挙げられる。

彭 (2017) は 60 組の類義語について日本語学習者の習熟度をアンケート調査し、「機会」「チャンス」は外来語にすることで意味が強調される例とした。具体的には「チャンス」は「機会」よりも「好機」に意味が類似しており、ラストチャンス、シャッターチャンス、チャンス到来といった語が存在している。一方で「機会」は「とき」「おり」「ついでに」といった意味が含まれているとし、以下のような例文を示している。

(3) 上京した機会に彼に会ってきた。(彭 2017)

この例文について、「機会」を「とき」「おり」「ついでに」と置き換えても意味は変わらない。以上のことから、「チャンス」の方が「機会」よりも意味が強調されていることを示した。しかし、この研究は 60 組の類義語について調査したものであり、「チャンス」と「機会」に特化した内容ではない。また、日本語学習者に対して同義語や類義語の使い分けの理解度や習熟度についてアンケート調査したという内容であり、コーパスを用いた研究ではないため、使用頻度や使用される文脈が不明である。

これに対し、陳 (2013) では「チャンス」の意味の変遷を『朝日新聞』の記事により考察している。この研究によれば、当初は「機会」が「チャンス」の意味までを含ん

でいたものの、貴重、稀、瞬間的な意味が喪失し、スポーツ面を中心に「チャンス」が使用される回数が増えたと報告している。ただし、この研究は新聞で用いられる語の変遷を見た研究であり、それも戦前の新聞を扱っているため、現代語で用いられる文脈や頻度はまだ検討の余地がある。

そこで本稿は、コーパスを用いて「チャンス」「機会」の用例を検索し、使用される頻度や文脈、場面等の比較を行ったうえで共起語からの「機会」と「チャンス」の特徴を明らかにすることを試みる。

### 3. 研究方法

本研究では『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(以下、BCCWJ)を用いて、使用文脈から検討するための用例分析と、使用場면을検討するための共起語分析を行う。用例分析では語彙素ごとの検索を短単位で行い、共起語分析では長単位・語彙素検索を行った。詳細は以下の通りである。

用例分析においては、BCCWJを用いて短単位・語彙素検索を「機会」と「チャンス」で行い、抽出された用例について「書き言葉・話し言葉」「正負イメージ」「置き換え可能か」「複合名詞か」の4項目から「機会」と「チャンス」の差異を検討した。

共起語分析については、品詞ごとに「機会」「チャンス」と結びつく語の特徴を検討するため、BCCWJを用いて名詞・形容詞・動詞の場合を検索した。それぞれで用いた方法は以下の通りである。

名詞共起対照については、長単位検索にて品詞の大分類「名詞」+語彙素「の」+語彙素「機会」「チャンス」で検索を行った。これは名詞コロケーションに着目した対照研究のモデルを示した建石(2019)を参考としている。

形容詞共起対照においては、イ形容詞とナ形容詞の双方を分析・検討するため、イ形容詞の検索については、長単位検索にて活用形「連体形」をキーとし、後接語に語彙素「機会」「チャンス」とした。ナ形容詞の検索については、長単位検索にて、キーを指定なしとし、後接には語彙素「だ」、さらに後接に品詞小分類「連体形ー一般」とした。この検索方法は形容詞の類義語研究を行った王(2017)及び「XXと」「XXな」「XXしい」といった豊語の共起関係や文法的振る舞いについて検討を行った陳(2018)を参考としている。

動詞共起対照においては、「機会」「チャンス」は長単位検索にて活用形「連体形」をキーとし、後接語を語彙素「機会」「チャンス」とした。

### 4. 用例分析の結果

以下では、用例分析について結果を述べる。

BCCWJを用いた検索の結果、「機会」で7844件、「チャンス」で3605件の用例が見つかった。その後、劉(2018)が程度副詞の比較検討で用いた方法を参考に、ランダム関数を使用して無作為で1000件を抽出した。なお、分析の際に固有名詞やコーパ

スの誤解析と考えられる用例と判断した場合、これらは考察対象外とした。その結果、考察対象となった用例は、「機会」が 993 件、「チャンス」が 990 件となった。

これらの用例について 4 つの検討項目から分析を行った。検討項目については建石 (2018) の類義語のチェックリストを参考とし、「書き言葉・話し言葉」、「正負イメージ」、「置き換え可能か」「複合名詞か」とした。具体的な分類としては、「書き言葉・話し言葉」では「だ・である調」を用いたものを「書き言葉」とし、「正負イメージ」では「発話者にとって望ましくない機会やチャンス」を負に分類し、「置き換え可能か」では「就業機会」のような語を「就業チャンス」とすることができるかで判断し、「複合名詞か」では「雇用機会」や「ビジネスチャンス」といった「機会・チャンス+ (別の語)」、または「(別の語) +機会・チャンス」、「(別の語) +機会・チャンス+ (別の語)」といった語となっているかによって判断した。以下、「書き言葉・話し言葉」「正負イメージ」「置き換え可能か」「複合名詞か」の 4 項目について用例数及びその割合から特徴を挙げていく。

#### 4-1 書き言葉と話し言葉

最初に書き言葉と話し言葉の観点から比較検討を行う。

用例を分析した結果、「機会」においては書き言葉の用例が 60.1% (597 件)、話し言葉の用例が 39.9% (396 件) であったのに対して「チャンス」では書き言葉の用例が 44.7% (443 件)、話し言葉の用例が 54.8% (543 件)、判別不明の用例が 0.4% (4 件) であった。

まず、「機会」の用例を挙げる。(4) は書き言葉、(5) は話し言葉である (下線部は筆者による。以下同様。)

- (4) そこへ、大大名となる絶好の機会が巡ってきたわけだ。昌幸は二人の息子に意見を聞いた。(PM41\_00597, 31760)
- (5) この機会にたばこを見直してみませんか。(OP40\_00001, 83440)

次に、「チャンス」の用例である。(6) は書き言葉、(7) は話し言葉としたものである。また、書き言葉と話し言葉の区別をし難い用例も 4 件見られたため、これらは「不明」とした。ここでは一例として単語が羅列された例 (8) を挙げる。

- (6) 彼がアトリエを見せるというのは珍しいそうだ。たいへんなチャンスである。(LBo7\_00039, 55940)
- (7) そんなことをいっていると、あなたはチャンスをなくしますよ。(LBa0\_00003, 94490)
- (8) 棋聖 屋敷伸之 五段 真田圭一 観戦記 山田史生 第 1 譜 チャンス (△6 四角までの局面) (LBm7\_00033, 600)

## 4-2 正負イメージ

次に、用例中の「機会」「チャンス」が持つ正負イメージを分析する。

「機会」では正のイメージ用例が 96.3% (956 件) で負のイメージ用例が 3.7% (37 件) であったのに対し、「チャンス」は正のイメージ用例が 99.6% (986 件) で負のイメージ用例が 0.4% (4 件) であった。「機会」「チャンス」ともに正のイメージの用例がほとんどを占めているが、マイナスイメージの用例についてはわずかに「機会」の方が「チャンス」よりも用例が多かった。

まず、「機会」の用例を挙げる。(9) が正のイメージ用例、(10) が負のイメージ用例である。

(9) 校外学習で三内丸山遺跡を見学したことをよい機会に、縄文時代の人々の生活についてレポートにまとめました。(OT32\_00016, 35580)

(10) 文宗・宣宗の頃には、李徳裕と牛僧儒が政権の掌握をめぐって、朋党をくんで争い、小人がばっこする機会が多くなった。(PB42\_00041, 6850)

これに対して「チャンス」の用例は正のイメージでの使用が (11)、負のイメージの用例が (12) である。

(11) また、サミットの開催は、国際観光都市登別の魅力を世界に PR できる絶好のチャンスでもありますので、国内外に情報を発信したいと思います。  
(OP03\_00001, 198840)

(12) 人工衛星、テレビ、変圧器類、携帯電話から降り注ぐ電磁放射線に当たるチャンスは、家庭内の電気配線で不運にも感電する場合よりはるかに多い。  
(PB44\_00013, 2220)

## 4-3 置き換え可能か

そして、置き換え可否については以下の手順に従った。最初に「置き換えによって非文になるか」という点で大きく「置き換え可能」と「置き換え不可能」に分類したのち、「完全同義」となる置き換え、「ニュアンス変化」がある置き換え、「要追加語句」である置き換え、「置き換え不可」の4つに分類した。

その結果、「チャンスから機会への置き換え」では置き換えても非文にならない「完全同義」が 31.8% (315 件)、「ニュアンス変化」が 18.9% (187 件)、「要追加語句」が 27.8% (275 件)、「置き換え不可」が 21.5% (213 件) であった。一方で「機会からチャンスへの置き換え」では「完全同義」となる置き換えが 56.1% (557 件)、「ニュアンス変化」が 19.7% (196 件)、「要追加語句」が 2.9% (29 件)、「置き換え不可」が 21.2% (211 件) であった。具体的な例を以下に挙げる。

#### 4-3-1 完全同義となる例

置き換えを行っても完全に意味が一致する用例として (13) が挙げられる。また、置き換えた例を (13) 'として示す。この場合、置き換えをしたことにより意味の変化はほとんどないだろう。

(13) 貴重な体験できる絶好の機会です。(OP99\_00002, 11690, 7300)

(13) ' 貴重な体験できる絶好のチャンスです。

#### 4-3-2 置き換え可能もニュアンスが変化する例

置き換えを行って意味が変化する例としては (14) が挙げられる。また、置き換えた例を (14) 'として示す。(16) の「機会」を「チャンス」に置き換えた場合、「役人が普段は行くことが難しい」というニュアンスが包摂されると考えられる。

(14) 逆に役人の来村の機会としては、巡察や検地などのケースが考えられる。

(PB52\_00017, 39370)

(14) ' 逆に役人の来村のチャンスとしては、巡察や検地などのケースが考えられる。

#### 4-3-3 語句の追加で置き換え可能となる例

追加の語句を置くことで置き換えが可能となる用例としては (15) が挙げられる。(15) の「チャンス」を「機会」に置き換え、(15) 'だけでは文の許容度が低下するが、「絶好の機会」と置き換え、(15) ”とすると (15) とほぼ同義の文となる。なお、ここで置き換えが可能となる追加語句は「絶好の」に限らず、「よい」の追加でもほぼ同義となるだろう。

(15) ところが、一番恐れていた衣笠が逮捕された。そのニュースを聞いた都築は、チャンスだと思った。(LBg9\_00130, 18750)

(15) ' ところが、一番恐れていた衣笠が逮捕された。そのニュースを聞いた都築は、機会だと思った。

(15) ” ところが、一番恐れていた衣笠が逮捕された。そのニュースを聞いた都築は、絶好の機会だと思った。

#### 4-3-4 置き換え不可能な例

語句の置き換えが不可能な用例として、(16) がある。「チャンス」を「機会」に置き換えて (16) 'とすると、「シャッター機会」が非単語であるため、置換が不可能となる。また、③で見られた語句の追加を行ってもこの場合は置き換えが不可能である。

(16) 昼間の厚い雲に覆われた太陽が、うっすらと透けて見える様子もシャッターチャンスになる。(LBh7\_00058, 45420)

(16) '昼間の厚い雲に覆われた太陽が、うっすらと透けて見える様子もシャッター機会になる。

以上のように用例を分類したところ、「チャンスから機会への置き換え」よりも、「機会からチャンスへの置き換え」において「完全同義」となる用例が多いほか、「要追加語句」においては「機会からチャンスへの置き換え」よりも「チャンスから機会への置き換え」で多いことが分析結果より明らかとなった。

#### 4-4 複合名詞か

最後に複合名詞か否かを見る。「機会」「チャンス」が単体で用いられているか、複合名詞として用いられているかを分析したところ、「機会」では複合名詞でない単体の割合が 87.7% (871 件)、複合名詞の割合が 12.3% (122 件)、「チャンス」では単体の割合が 89.0% (881 件)、複合名詞の割合が 11.0% (109 件) となった。このことから、複合名詞となった用例数に大きな差がないことが明らかとなった。

「機会」の単体及び複合名詞の用例を挙げる。(17) が単体であるのに対し、(18) は複合名詞の用例である。

(17) 今回、スタンダード紹介百年を記念して論文集が編まれるのを機会に、その一端に加えていただき、私なりに明治・大正期を中心に昭和も含めた受容の流れを素描したいと思う。(PB29\_00068, 4990)

(18) 水産加工業は、変動の大きい漁獲物の供給の安定や価格の低い漁獲物の付加価値向上に資するとともに、消費者ニーズに対応した生産物の提供、地方における雇用機会の提供等多様な役割を果たしている。(OW4X\_00106, 930)

これに対し、「チャンス」が含まれた単体の用例が (19)、複合名詞の用例は (20) である。

(19) とにかく、強い願いを持ち続けていれば、降ってわいたようにチャンスがやってくるものです。(OY03\_03725, 3500)

(20) いわんや、もっとポピュラーな商品を扱っているところは、日々、新しいビジネスチャンスが転がっていると言えるでしょう。(PB11\_00080, 14290)

### 5. 共起語分析の結果

以下では、「機会」と「チャンス」における名詞・形容詞・動詞の共起とその特徴を表とともに述べる。形容詞については、イ形容詞とナ形容詞でそれぞれの結果と特徴を

挙げていく。

### 5-1 名詞共起分析

第3章で上述した検索の結果、「機会」で1329件、「チャンス」で618件の用例が見つかった。

「機会」と共起した名詞の上位20語は表1の通りである。「教育」「交流」「学習」といった名詞に代表されるような「する」の追加でサ変動詞となる名詞が多く、また下線部に表したような学習や言語活動、また「交流」「仕事」といった日常生活に関わる語が多いことがわかる。全体的には、「絶好」「次」といった程度や属性に関する語が多いものの、「教育」「交流」といった「機会」の内容に関する語も多い結果となった。

「チャンス」と共起した名詞の上位語は表2の通りで、程度や属性を表す語が多く、「千載一遇」のような「一回限り」という意味の語がみられた。しかし学習や言語活動、生活に関する語は上位語になかった。全体的には、「チャンス」は程度や属性を表した語を取りやすいが、その内容に関する動詞があまり見られなかったという結果となった。

表1 「機会」と共起する名詞

上位20語 (BCCWJ、\_\_の機会)

名詞	頻度		
絶好	115	他	11
次	70	仕事	11
最後	26	就業	10
教育	21	発表	10
交流	20	社会参加	10
学習	17	多く	9
研修	16	唯一	9
発言	15	最初	9
雇用	15	参加	9
弁明	12	質問	9

表2 「チャンス」と共起する名詞

上位20語 (BCCWJ、\_\_のチャンス)

名詞	頻度		
絶好	115	他	11
次	70	仕事	11
最後	26	就業	10
教育	21	発表	10
交流	20	社会参加	10
学習	17	多く	9
研修	16	唯一	9
発言	15	最初	9
雇用	15	参加	9
弁明	12	質問	9

### 5-2 形容詞共起分析

第3章で述べた検索の結果、イ形容詞は「機会」で326件、「チャンス」はイ形容詞で141件検索された。「機会」と「チャンス」それぞれで共起するイ形容詞を表3と表4に示す。なお、ここでは2件以上共起した形容詞について扱う。

表3 「機会」と共起するイ形容詞  
2件以上の語 (BCCWJ、\_\_機会)

形容詞	頻度
良い	215
早い	47
無い	24
少ない	8
素晴らしい	6
新しい	5
近い	4
得難い	4
等しい	2

表4 「チャンス」と共起するイ形容詞  
2件以上の語 (BCCWJ、\_\_チャンス)

形容詞	頻度
良い	51
無い	42
新しい	16
少ない	13
惜しい	6
チャンスらしい	3
得難い	2

「機会」と共起したイ形容詞を見ると、「良い」という語彙素が非常に多く検索された。ほかに、数は大きく減るが、「無い」「少ない」といったその「機会」が非常に限られていることを示す共起もみられる。これに対し、「チャンス」と共起したイ形容詞を見ると、「良い」という語彙素が最も多く検索されたが、前節に「めったに」や「またと」が来る「無い」や「少ない」、「得難い」といった「限られている」共起も多く、「機会」と比較して用いることのできる場面は制限されているようにも見える。

一方でナ形容詞について検索を行ったところ、「機会」が246件、「チャンス」で47件検索された。この検索結果において共起語を分析したところ、表5と表6のようになった。ここでも、2件以上の頻度があったものについて扱う。

表5 「機会」と共起するナ形容詞  
2件以上の語 (BCCWJ、\_\_な機会)

形容詞	頻度	多様	4
様	54	特別	4
均等	43	僅か	3
色々	25	十分	3
貴重	21	大切	3
様々	20	必要	3
別	11	稀	3
平等	9	みたい	2
適当	6	新た	2
重要	5	適切	2

表6 「チャンス」と共起するナ形容詞  
2件以上の語 (BCCWJ、\_\_なチャンス)

形容詞	頻度
様	10
決定的	9
貴重	7
大変	2
素敵	2
僅か	2

「機会」と共起したナ形容詞を見ると、「様」が最も多い共起となったが、これは「形状詞－助動詞語幹」となる語であり、「形状詞－一般」として分類されたものとは異なって具体的な意味がないため、ここでは考慮しないこととする。全体としては「均等」「色々」といった『語彙分類表』において「様相」に分類されるものが多いほか、「色々」「様々」「適当」といった共起語については具体的な「機会」の内容が定まっておらず、意味が非常に曖昧である語であるが、こうした用例も上位共起語に含まれていた。これに対して「チャンス」と共起したナ形容詞を見ると、異なり語数自体があまり多くないものの、「決定的」「貴重」「僅か」といった語彙素はすべてその「チャンス」そのものがあまり多くないことを示した共起である。一方で意味があいまいな「色々」などの共起はここでは見られなかった。『語彙分類表』で「様相」に分類されたものについても「素敵」のみであり、「機会」の共起の傾向とはやや異なることがわかる。

### 5-3 動詞共起分析

第3章の検索結果による動詞共起の用例の件数は、「機会」で2847件、「チャンス」は745件であった。「機会」と「チャンス」の動詞共起について、表7と表8に示す。なお、ここでは上位20語について扱い、その特徴を以下で述べる。

表7 「機会」と共起する動詞

上位20語 (BCCWJ、\_\_機会)

動詞	頻度	使う	41
する	198	知る	34
見る	108	飲む	32
接する	95	掛かる	29
会う	85	着る	27
言う	84	参加する	27
話す	79	成る	23
行く	63	食べる	22
聞く	61	乗る	22
受ける	60	話し合う	22
学ぶ	50	利用する	22
考える	44	述べる	22
触れる	41	触れ合う	22

表8 「チャンス」と共起する動詞

上位20語 (BCCWJ、\_\_チャンス)

動詞	頻度	話す	7
成る	30	会う	7
する	27	貰える	7
言う	15	受ける	6
入れる	12	変える	6
取る	11	逃げる	6
得る	10	出会う	6
成れる	10	齎す	5
行く	9	聞ける	5
見る	9	変われる	5
使う	8	聞く	5
出来る	8	知る	5
成功する	8	会える	5

「機会」と共起した動詞を見ると、最も多く共起しているのは「する」という語であるが、内訳を分析したところ、72件が「話をする」「演説をする」といった「発話」に関する語であった。発話に関する語としては、ほかに「言う」「話す」などがある。また、「接する」「触れる」といった「接触」に関係した語がみられたほか、「飲む」「食べ

る」といった食事に関係した語とも共起した。このことから、「機会」と共起した語では、日常の行為を表したものが多く共起する傾向にあることがわかる。一方、「チャンス」と共起した動詞を見ると、受け取りに関する動詞が「取る」「得る」などをはじめとしてみられる。また、「成れる」「出来る」といった可能を意味する動詞が共起語の上位にある。こうした受け取りや可能の動詞は「機会」の上位共起語には見られなかったものである。

## 6. 考察

名詞との共起を見ると、学習や発話活動、日常生活に関わる動詞は「機会」で多く、「チャンス」で少ない結果となった。この理由については、「機会」と共起した「学習」「発言」「仕事」といった名詞の行為については「複数回」かつ「繰り返し」で行われる可能性が非常に高いという点で共通している。それでは「機会」という語は「複数回」または「繰り返し」行われる場面で頻出するのだろうか。「チャンス」との名詞共起を見ると、程度や属性を表す語が多いが、そのなかに「千載一遇」「唯一」といったその一回限りとなる共起語がある。「機会」にも「唯一」が上位共起にあるものの、イ形容詞との共起においても「チャンス」の方が「限られた場面」を意味する形容詞の頻度が多い。

この点について、用例分析からの結果を見ると、「置き換え可能か」の4分類の項目より、「機会からチャンスへの置き換え」では完全同義となる用例が多かったのに対して「チャンスから機会への置き換え」では「機会」に追加語句が必要な用例が多かったことから、「機会」は比較的抽象的で、広範囲での使用が可能であるのに対して「チャンス」の方は意味が具体的であり、「機会」に置き換えた際に説明となる追加の語が必要なことからやや局所的な意味がある。具体的な説明を次の用例によって行いたい。

(21) 幸い、彼女の住んでいる街と沿線が同じで、帰りは一緒。しかも、職業がメイクのアシスタントともなればもらったも同然だ。しかし、初めて会話をした日からずっとチャンスを待っていたのだが、なかなか彼女が教室に姿を見せない。(PB25\_00200, 40870)

(21) ’? (前略) ...ずっと機会を待っていたのだが、なかなか彼女が教室に姿を見せない。

この「チャンス」を「機会」に置き換えた場合、「彼女」を何らかの理由で狙っているという意味が薄くなり、何をするための機会なのかがあまり明確ではない。しかし、「(再度)話す」を「機会」の前接に置くことで、意味がはっきりとする。つまり、「チャンス」を「機会」に置き換える際に問題となるのは、その具体性である。次に、「チャンス」が持つ具体性や局所性によって置き換えができない例を見る。

(22) たとえば微積分を習っても、それを実際に応用して使う機会をもつ人は多くない。(LBm3\_00077, 15580)

(22) ’?たとえば微積分を習っても、それを実際に応用して使うチャンスをもつ人は多くない。

この用例からは、習った人が微積分を意図して使っているのではなく、また使う機会を狙っているわけでもないため、それらのニュアンスが含まれている「チャンス」を用いた場合、違和感のある文となる。こうしたニュアンスが結果として「限られた場面」で「チャンス」が使用されやすい要因であると考えられる。反対に、「機会」ではナ形容詞の共起にみられる「様々」や「色々」をはじめとして、やや曖昧な語や抽象的な語とも共起している。そのため、具体性は要求されず、広範囲で使用可能であるために特別な場面ではない日常生活上の語、つまり学習や言語活動、飲食関係の語とも「機会」は共起する。このように、「機会」と「チャンス」の置き換えについては「チャンス」の具体性に影響されることがわかる。

次に、「機会」と「チャンス」の動詞連体形共起にみられた特徴について考察する。「機会」との共起では、「接触」に関係した語が多く共起したほか、発話や食事といったヒトのクチに関係する語も見られた。一方で「チャンス」との共起では受け取りや可能を意味する動詞との共起がみられた。これらは、上位語の結果の傾向として表れたものだが、用例全体としてもこの傾向であるかを検証するため、上位共起の特徴として見られた「接触」「発話・食事」「受け取り」「可能」<sup>1</sup>の四つの点について、すべての用例から該当するものを総計した。この際、「接触」は「接する」「触れる」のような物理的接触を意味する直接的な場合と「交流する」「参加する」といった何らかの「相手」が存在する場合の「接触」の2つの場合について検討した。その結果を表9にまとめる。

表9 「機会」「チャンス」の特徴と用例数（割合）

	全体の 用例数	接触 (直接)	接触 (広義)	発話・ 食事	受け取り	可能
機会	2837	220 (7.8%)	1246 (43.9%)	410 (14.4%)	186 (6.6%)	134 (4.7%)
チャンス	745	19 (2.6%)	261 (35.0%)	40 (5.3%)	74 (9.9%)	104 (13.9%)

<sup>1</sup> ここでは以下に述べる意味でこれらの語を使用している。「接触」は後述するように物理的な接触や接触する相手がいることが明らかな語、「発話」は「話す」「演説する」「述べる」といった音声を発する語、「食事」は「食べる」「飲食する」といった飲食に関する語、「受け取り」は「得る」「取る」など何らかのモノを入手した場合や獲得した場合の語、「可能」は「出来る」「成れる」などの可能を意味する語である。

概ね上位共起で見られた特徴と同様の結果となった。接触や発話・食事といった日常の行為に関係した語は「チャンス」よりも「機会」でよく見られ、受け取りや可能といった利益やメリットに関係した語は「機会」よりも「チャンス」で見られた。日常的行為に関係した語が「機会」でよく見られた要因は上述した通りだと考えられるが、「チャンス」で利益やメリットに関係した語がよく見られたのはどのような理由だろうか。外来語が利益やメリットが関係する語と共起しやすいとした研究は管見の限りないものの、大学生に対して外来語のイメージや表記、語種意識の調査を行った菊池（2008）は、外来語について「明るい」イメージが持たれていると述べている。本研究においては「明るい」または「暗い」という観点では検討していないが、利益やメリットを得ることについては基本的にはプラスの意味を持つ。また、用例分析においては「機会」「チャンス」ともに正のイメージの用例が大半だが、「機会」では負のイメージの用例が全体の 3.7%と若干ではあるが観察された一方で、「チャンス」では 0.4%とほとんど見られなかったことから「チャンス」の方がプラスの場面で用いられることがわかる。

ここまでは、共起語分析の結果より考察を行ったが、用例分析で見られた結果についても考察する。「機会」と「チャンス」の用例において、「機会」で「書き言葉」がよく見られ、「チャンス」で「話し言葉」が多く見られたことについて、レジスターから考察を行いたい。BCCWJ は全体としては書き言葉のコーパスであるが、レジスターの中には「ブログ」や「国会会議録」といったレジスターも含まれており、一部で話し言葉の用例もある。そのため、書き言葉及び話し言葉でどの程度用いられているのか、100万語あたりの語数である PMW（Per Million Words）にてレジスターからも判断した。

表 10 「機会」「チャンス」の用例におけるレジスターと PMW

レジスター（「機会」）	PMW	レジスター（「チャンス」）	PMW
特定目的・白書	54.5	出版・新聞	22.1
特定目的・法律	35.4	特定目的・ブログ	13.3
特定目的・広報誌	35.1	出版・雑誌	12.1
特定目的・国会会議録	29.9	出版・書籍	7.9
出版・新聞	23.1	特定目的・ベストセラー	7.5
出版・書籍	16.9	図書館・書籍	7.5
図書館・書籍	14.4	特定目的・広報誌	4.3
出版・雑誌	9.8	特定目的・国会会議録	3.2
特定目的・ベストセラー	9.1	特定目的・知恵袋	2.9
特定目的・ブログ	8.0	特定目的・白書	1.0
特定目的・教科書	6.7	特定目的・韻文	0
特定目的・知恵袋	3.5	特定目的・教科書	0
特定目的・韻文	0	特定目的・法律	0

表 10 の通り、レジスターとその PMW を観察すると、「機会」においては「白書」「法律」「広報誌」「国会会議録」といったレジスターが上位に並んでおり、これらのレジスターは公の場面で多く用いられる。一方で「チャンス」においては「新聞」「ブログ」「雑誌」といったレジスターが上位に並んでいるが、このうち「ブログ」「雑誌」では私的な場面で用いられることが多い。これらのレジスターは「機会」ではあまり上位ではなく、一方で「機会」で上位であった「白書」「法律」「広報誌」「国会会議録」は「チャンス」ではそれほど上位にあるわけではない。

このことから、「機会」は公的な場面で用いられる傾向があり、「チャンス」は私的な場面で使われる傾向があることがわかる。そしてこれが書き言葉と話し言葉の割合に影響した可能性であると考えられる。

## 7. おわりに

「機会」「チャンス」について、BCCWJ を用いて用例分析及び共起語分析を行った結果、以下のことが明らかになった。

- I 「機会」より「チャンス」の方が意味が具体的であり、置き換えの制限もそれによって発生する。具体性がない曖昧な語や抽象的な語は「機会」で用いられやすく、具体的に程度や属性を説明する語を伴う場合は「チャンス」で用いられやすい。
- II 接触・発話・食事といった日常的な行為は「機会」で、受け取りやメリットといったプラスの意味を持つ場合は「チャンス」が用いられやすい。
- III 書き言葉または公的な場面では「機会」の方が用いられ、話し言葉または私的な場面では「チャンス」が用いられやすい。

この使い分けを用いて、再度冒頭の (1) (2) の用例について、「チャンス」を用いることができない要因を考える。

(23) 感染の機会を減らしましょう。(1) 再掲)

(24) もしも機会があったら東京に行きたいです。(2) 再掲)

(23) では「機会」を「チャンス」に置き換えると不自然となる用例であるが、「感染」は「何度も起こりうる」という意味が含意されるため、「限られた」意味を持つ「チャンス」とは相性が悪い。そのため、置き換えを行うと不自然となるのである。また、(24) については、「チャンス」を用いた場合、「限られた」ニュアンスが含まれ、「東京に行くことが難しい」という印象が「機会」を用いた場合よりも強くなるのではないだろうか。そのため、(23) (24) については「機会」を用いるのが適当だと推察される。

本稿では「機会」と「チャンス」の使用頻度や使用場面を用例と共起語から明らかにしてきた。具体的に用いられやすい場面を結果から考察し、上記の3点を示すことができた。そのため、陳（2013）で示されていたような「貴重な」「稀な」「瞬間的な」の意味が「チャンス」になるという使い分けだけでなく、「曖昧さ・抽象性」「日常性」「公的・私的」といった観点で使い分けを示すことが可能となった。しかし、外国人学習者がこれらを直ちに使い分けるのは学習者の母語の「機会」「チャンス」にあたる語との差異を考えなければならぬため、依然として難しいだろう。そして、そのような語と「機会」「チャンス」の意味の差異を検討するのであれば、言語間の対照研究も視野に入れる必要がある。この点について今後の課題としたい。

## 参考文献

- 王雨（2019）「外来語の類義造語成分について－「アワー」と「タイム」を対象として－」『言語科学論集』23, pp.25-37, 東北大学大学院文学研究科
- 王海濤（2017）「日本語特殊形容詞の装定用法の出現傾向について」『言語資源活用ワークショップ発表論文集』2, pp.2-8, 国立国語研究所
- 菊池悟（2008）「大学生の外来語意識（1）－イメージ・表記・語種意識の調査から－」『岩手大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要』4, pp.61-73, 岩手大学教育学部附属教育実践研究指導センター
- 国立国語研究所編（2004）『分類語彙表 増補改訂版』大日本図書
- 小学館国語辞典編集部（2006）『日本国語大辞典』（第1巻）小学館
- 建石始（2018）「類義語分析のためのチェックリスト」岩田一成（編『語から始まる教材作り』pp. 45-58, くろしお出版
- 陳曉静（2013）「類義語としてのカタカナ語・漢語の意味的相違－『朝日新聞』に基づく「チャンス」の意味的変遷についての考察－」『Studies in language science working papers』3, pp. 181-192, 立命館大学大学院言語教育情報研究科
- 陳祥（2018）「「XX と」、「XX な」、「XX しい」の構造・文法機能－量語による生産性について－」『言語資源活用ワークショップ発表論文集』3, pp.307-315, 国立国語研究所
- 彭飛（2017）「日本語の「外来語と和語・漢語」の同義語や類義語の使い分けの調査－日本語学習者の理解度・習熟度及び『日中辞書』の解釈のありかたを考えて－」『無差』24, pp. 1-17, 京都外国語大学日本語学科研究会
- 劉時珍（2018）「福祉の程度性の下位分類の試み－「あまり・そんなに・それほど・たいして」を例に」『言語資源活用ワークショップ 2018 発表論文集』3, pp. 136-141, 国立国語研究所

## 参考資料・使用データ

- 秋山耀平 YouTube チャンネル「瞬間就能聽出是外國人說的日文表達，看看你有沒有這樣說？」, <https://www.youtube.com/watch?v=kuKY6jxIE4k>（閲覧日：2023年2月5日）

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』 ver.2021.03, 国立国語研究所,

<https://chunagon.ninjal.ac.jp/> (閲覧日: 2023年2月25日)

「中納言」版 BCCWJ/短単位語数 ver2.4.5, 国立国語研究所,

<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search> (閲覧日: 2023年2月25日)

『NINJAL-LWP for TWC (NLT)』 ver1.40, 国立国語研究所, Lago 言語研究所,

<https://tsukubawebcorpus.jp/search/> (閲覧日: 2023年2月25日)

(埼玉大学大学院人文社会科学研究科博士前期課程)